



2023. 11. 12

# ニリンソウ自生地 保護活動情報

赤塚公園ニリンソウを守る会  
[akatsukanirinso@gmail.com](mailto:akatsukanirinso@gmail.com)

都立赤塚公園  
サービスセンター  
03-3938-5715

編集責任：運営サポーター／木村



Since 1982 ニリンソウ保護活動 41 年目  
2023 年度は東京都都市公園制度制定 150 周年

## 赤塚公園ニリンソウを守る会 活動予定

- ・12/3 大門自生地の手入れ  
10:00 大門観察台集合、11:30 頃解散
- ・12/10 赤塚八丁目の林の手入れ  
10:00 赤塚ため池公園の梅林下
- ・2024/1/14 大門自生地の手入れ  
10:00 大門観察台集合

★団体活動ではありません。参加者個々人の自主活動の集まりです。誰でも参加できます。活動現場ではリーダーの指示に従っていただきますが、自由参加です。

※問合せ：左記赤塚公園サービスセンターへ

# 天候に悩まされながら手入れ進行

## 11/12 17名 メインステージの草刈りをしました

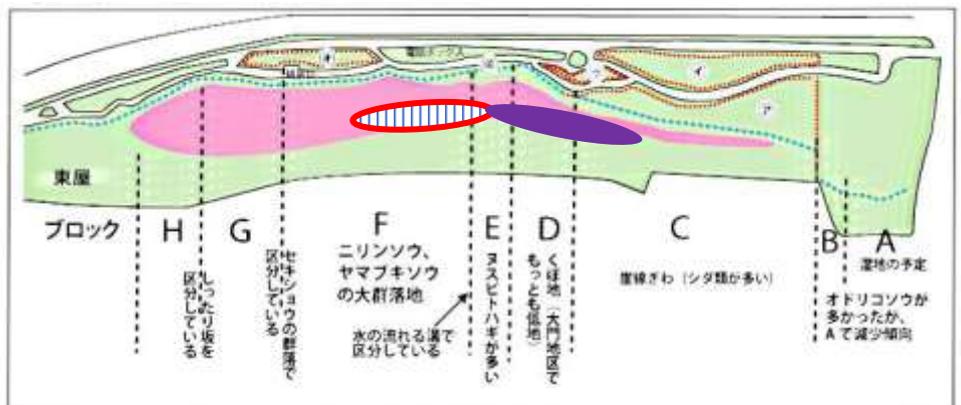


気温 25℃以上の「夏日」が観測史上最多を記録した今年の秋は、明け方が涼しくても、陽が射す昼間になると蒸し暑いという体調管理が難しい日々が続いています。天気予



報も難しいのでしょうか。手入れ活動をするかしないかの判断がつけにくい天候ばかりです。11/12 は朝の9時過ぎまで霧雨でした。幸い、それがやんだので活動開始となりましたが、気温は12月中頃を思わせる寒い一日でした。

右下マップの紫色塗りつぶし部分は11/5までに草刈り終了。赤囲み部分が11/12の場所でしたが、上左の夏草で覆われていたニリンソウのメインステージを右の写真のようにすっきりとさせました。作業はほぼ予定通りに進行しています。



## 刈り取らないで残す植物がたくさんあります

ニリンソウ自生地の崖線の手入れ活動は刈り払い機などの機械を使わずに、昔から人の手作業で行ってきました。刈り取らないで残しておきたい貴重・希少な植物がたくさんあるからです。そういう植物には赤いリボンでマーキングして、気を配りながらの作業です。



←開花が遅くまだ蕾の状態のイヌシ

ヨウマの大きな群

落は残しました。シ

ダの仲間でも珍しい

オオハナワラ

ビも残しました→

そのほかに、越年

草のハナウドや大門

地区でしか観察でき



ないノブキ、白い実のマンリョウなども残しつつの作業でした。

下の写真は11/5の草刈りですが、手作業ではなかなか進みません。赤いマークを付けた木（保存種のニワトコ）からスタートして90分後が右の写真なのですが、この日は16名の参加で



40~50m進行するのが精いっぱいでした

←10:10 作業開始 10分後

11:20→ 作業終了



## ニリンソウは土の中で春の準備をしています



ニリンソウは3~4月の開花期を終えて5月の連休が過ぎたころには葉も茎も枯れて翌年2月の展葉期までの9か月間は地下生活を送っています。

←今の時期では、落ち葉をのけて地面を少しかき分けると、太いも虫のようなものが見つかります。茎が根のようになった根茎です（根は細く髭のように見えるもの）。先端から葉茎の芽がちょっぴり見えます。これが、1月にはもやしのように伸びてきて、2月には地上に葉を広

げるようになります。そうすると人は林に入れません。ニリンソウをつぶしてしまうからです。

作業ボランティア以外の方には、どうかご理解いただき、柵内への立入りはご遠慮ください。